



JAL不当解雇撤回ニュース

No 047号 2011.07.15
発行: JAL 解雇撤回国民共闘事務局
連絡先: 航空労組連絡会事務局
〒144-0043 大田区羽田 5-11-4
フェニックスビル内
TEL: 03-3742-3251 FAX: 03-5737-7819
http://www.phenix.or.jp/ikkk/

7月4日に『日本航空の労働者を励ます集い』

500人の仲間が千葉に集まった!! 許すな JAL 不当解雇、守ろう空の安全!



司会は元NW清水さん、大友さん

オープニング演奏あり、
寸劇あり、合唱あり、
そしてカンパあり
熱気に包まれた約2時間!



オープニング演奏をするユニオン・ニュー
フィルハーモニー千葉の皆さん

国民の命と働く仲間の命を守る闘いだ

千葉労連 松本 悟 議長の開会あいさつ

政府・資本がすべき三つのこと
がある。住民本位で震災復興
する、原発を終息させエネルギ
ー政策を転換させる、暮らしと
雇用を守り日本の経済を再生
させること。このような理不尽な
首切りを行っている場合ではな
い。この事件の本質は明らか
に組合つぶしだ。労働組合つ
ぶしが何を引き起こすかというその象徴が東電の原発事故。
かつて電産時代は闘う組合があつた。思想差別で、もの言
わぬ職場になりこの事故を起こした。



自由にものの言えない職場(東電)が日本を破滅に追い
込んだ。JALの不当解雇撤回闘争も震災復興も、人間復興
のシンボリック闘いと思う。空の安全、命を守る、そこで働く仲
間の命を守る大義ある闘いであり、必ず、国民的共同を呼
ぶ。原発で世論は変わりつつある。その理由は、東電や稲
盛和夫などの心は見えないが、下心が見えるようになり、そ
れを国民が見抜くようになってきたからである。勝利の秘訣
は、団結と統一。連帯が広がれば勝利となる。プライドが許
さない心意気ですべての争議と闘っていきたい。

闘争の強化が求められる。JAL
の闘いを通じてこれからの日本
の労働運動を強化・発展させ
たい。これまでなかった幅広い
仲間が集まった本日の集いを
闘いのスタートにしたい。(千
葉) 共闘会議結成になるかもし
れない。楽しく闘い、大きく勝
つために全力をあげて行こう。



千葉県内の争議団紹介とあいさつ



JMIU SST 支部・諏訪さん: SST 社は
稲盛会長の弟子の手塚氏が社長。
社是で「地球との共生」を謳ってい
るが17名を解雇した。しかし、仮処
分申し立てで給料の75%を勝ち取
った。JAL 原告団と共に闘いたい。

全厚生闘争団・國枝さん: 525 名の首切り、39 名が闘って
いる。何故首を切られたのかという思いは JAL と同じ。年金

機構で
は正規
社員が
半分、
非正規
が半分
であり、



これでは年金が守れない。不合理的解雇に立ち向かい勝つて
いきたい。

国労・小林さん: 分割民営化で 25 年。1047 名解雇、966
名が闘ってきた。安全が損なわれている。昨年 4 月の政府

国家ぐるみの攻撃、強固な連帯が求められる

実行委員長あいさつ: 中丸素明 弁護士

JAL の整理解雇は国鉄で行われた国家的不当労働行為と
そっくり。政治家、財界、官僚一体の国家ぐるみの攻撃だ。
これからは闘う側の強固な連帯が求められる。ノースウエスト
航空で5名客室乗務員が不当地上配転に対し航空連、日航
客乗組合などの献身的支援で職場復帰を勝ち取った。協同



和解案で金銭面は実行されたが、雇用について JR は拒否をしており解決はしていない。国鉄の赤字も労働者のせいになれた。受けた試練は闘いで必ず返す。解雇撤回に向けて共に頑張りたい。

安全な日本をめざそう＝カンパの訴え

県医労連・森上さん:安全は経験豊かな乗務員で保たれる。ミスを防ぐには経験豊かな人材が必要だ。この点では航空も医療も同じ。患者の安全さえ守れない貧弱な国日本、乗客の安全をないがしろにするとんでもない首切りを平気でする日本。何としても裁判に勝利して、原告達を職場に戻すことで安全な日本にしたい。みなさんのカンパをよろしくお願いします。



退職強要に解雇、寸劇で JAL の不当性を訴える



会社: 会社が生き残るため、退職を！

CA: 経験を生かし、安全とサービスの為仕事を続けたい！



会社: 君に活躍の場はない、勇退を！

パイロット: 人間の尊厳を否定する退職強要には従えません！



整備士: コミュニケーション不足や成果主義で、意思疎通が弱くなった。

会社: 仕事ができることをありがたく思え！



会長: JAL フィロソフィーにコスト意識だ！ 異議を唱える者は解雇だ！

社長: 解雇したがみんな元気で、署名は 16 万筆を超えた。想定外です！

全国民に関わる大問題だ＝裁判の経過

東京南部法律事務所・小林大晋 弁護士

全国の労働者・弁護士が注目する事件でやりがいを持って働いている。負けられない。裁判は異例のスピードで進んでいる。事実関係に争いはなく評価の争いとなっている。価値観の闘いでもある。

リストラ信者の管財人、公共性を無視する価値観の人もある。労働者切り捨て・組合敵視の東電と同じ。儲かっているのに首を切る。ダウンサイジングに合わせた削減というが、労働者だけでなく、安全も切り下げている。



不当解雇は JAL だけでなく全ての労働者・国民の問題、安全の切捨ては、利用者だけでなく、この国全体の空の安全が害されるということ。すなわち、労働者に限らず全ての国民に関わる大問題。是非とも大きな支援をいただきたい。

勝つまで頑張る 原告団の決意表明

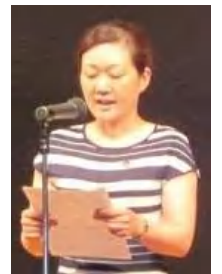
「裁判・職場・世論の3つの柱で、職場に戻る。勝つまで頑張る。」「盛大な集会を開いていただき、感謝の言葉に堪えない。あの空に帰りたいと思う。」「団結と支援で勝利したい。」



乗員団長・山口、客乗団長・内田による決意表明のあと、会場内カンパ 約 29 万円が渡された。そして「あの空へ帰ろう」が合唱されました

集会宣言、行動提起と閉会あいさつ

自由法曹団・宮腰直子弁護士提案の集会宣言を、満場の拍手で採択。行動提起と閉会のあいさつに立った国労千葉地本・坂口智彦書記長は、一日も早い不当解雇撤回・原職復帰を勝ち取り、空の安全を守るための行動提起として次の4点を提案し、拍手で確認されました。



- ① 裁判を傍聴する。
- ② 日航社長あての署名を集める。
- ③ 支援カンパ、物品販売に協力し、バッチを普及する。
- ④ 宣伝活動に参加する。



坂口智彦書記長最後に、働く者の暮らしと権利を守るためにも頑張ろうと訴えました。